第４学年○組　学級活動（１）学習指導案

令和４年　○月○日（○）第○校時

指導者　教諭　○○○○

４年○組教室（在籍児童数○○名）

１　議題「４－○オリンピックをしよう」

２　議題について

（１）児童の実態

　　本学級では学級活動での話合い活動において、自分の思いやアイデアをもち、意見を発表することができる。また、出された意見に対して賛成や反対の意見を出したり、周囲の意見を聞いて付け足したりすることができる。

一方で、発表する自信のなさで自分の考えを話合いに出せない児童も見受けられる。

学級活動に関しては、年度当初にオリエンテーションを行ったことで、計画委員の仕事や意見の発表の仕方、議題のアイデアや提案理由の練り上げの仕方などを少しずつ理解しながら学級会を行ってきた。これまでに「４年生がんばろうねの会をしよう」「フェスティバルのお店を決めよう」「クラスのマークを決めよう」「１学期がんばったねの会をしよう」についての話合いを通して児童は、自分の思いを発表するだけでなく、提案理由に戻って折り合いを付けたり、納得をして次に進んだりできるようになっている。

（２）議題選定の理由

　　本議題「４－○オリンピックをしよう」は、「オリジナルのほめ言葉を作ろう」や「クラスの歌を作ろう」、「ハロウィン集会をしよう」などの議題案の中から選定されたものである。選定された経緯として「オリジナルの競技ができるとおもしろそう」「チームで協力して、あまり話をしていない人とも仲が深まる」「運動が苦手な人も楽しめるように工夫して、クラスを明るくする」等の思いを受け決定された。本議題について話し合い、実践することをとおして、以下に示す力を育んでいくことを目指す。

　①提案理由や仲間の意見を大切にしながら自分の考えを表現する力

　　提案理由をもとに考えられるように、話合いの中で指導や助言を行い、よい児童を称賛する。

②目的意識をもち、仲間と協力しながら見通しをもって自主的に活動する力

　準備の中で、実践までの時間や必要なもの等を視覚化して意識できるようにする。

　③活動を振り返り、お互いのよさやがんばりを見つけられる力

　　振り返りの中で、自分の感想等だけではなく仲間の頑張りを見つけるよう助言する。

　上記の①～③の育成をとおして学級への所属感や児童相互の連帯感、仲間意識を更に高めていきたい。

３　評価の観点と評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| よりよい生活を築くための  知識・技能 | 集団や社会の形成者としての  思考・判断・表現 | 主体的に生活や人間関係を  よりよくしようとする態度 |
| みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。  意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。 | 楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践している。 | 楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。 |

４　研究テーマとの関連

（１）研究主題

自発的・自治的な活動を目指して、よりよい生活を作り、互いに認め合える特別活動

～ICT機器の活用と自己肯定感を育む実践を通して～

（２）目指す児童像

○低学年：仲良く助け合い、進んで学習や生活に取り組む児童

●中学年：友達と協力し合い、意欲的に学習や生活に取り組む児童

○高学年：友達を信頼し合い、自主的に学習や生活に取り組む児童

（３）研究仮説と手立て

【仮説１】

学級活動において、自発的、自治的な活動を通して、児童に成長する喜びや達成感を味わわせる指導ができれば、互いに認め合ったり、よさを伝え合ったりできる児童が育成できるであろう。

【手立て】

　①ICT機器を活用することで、児童の自発的・自治的活動につながるようにする。

　②学級会グッズを活用して板書の可視化・操作化・構造化を図り、児童が意見を言ったり、考えをまとめやすくしたりする。

　③活動に必要な時間や児童が使える時間などを分かりやすく掲示して明確化し、児童が見通しをもって取り組めるようにする。

【仮説２】

学級活動で教師が振り返りや評価の視点を明確にし、児童の言動を価値付ける評価ができれば、多様な個性を認めたり、自らのよさを発揮したりして、よりよい生活作りに参画する児童が育成できるであろう。

【手立て】

　①提案理由やめあての核となる部分をキーワード化して事後の実践までを含めてのめあてとし、児童が意識して取り組んでいくことができるようにする。

　②「楽しい学級生活ノート」を活用し、一連の活動を自己評価できるようにする。

　③学級会後の板書を写真に撮って掲示して児童が自由に見られるようにしていくことで、全体の学びの蓄積をし、次回の活動への意欲付けができるようにする。

５　事前の活動

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日時  活動の場 | 児童の活動  ○計画委員会　●全員 | 指導上の留意点 | ◎目指す児童の姿  （観点）【評価方法】 |
| ○月○日（○）  朝の時間  ○月○日（○）  帰りの会 | ○児童が書いた議題案・提案理由を確認し、議題を選定する。  ●議題を決定する。 | ・提案理由を念頭に置いて選定することを指導する。  ・計画委員会の提案のもと、学級全員で決定する。 | ◎よりよい学級を作るために、進んで議題の選定をしている。  （主体的に取り組む態度）  【提案カード・観察】  ◎学級生活をよりよくするために進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。  （主体的に取り組む態度）  【観察】 |
| ○月○日（○）  昼休み  ○月○日（○）  朝の時間 | ○活動計画を作成する。  　（提案理由・めあて・話し合うこと・決まっていること）の確認  ○会の進行の仕方を確認する。  ○教室後方の黒板に掲示する。 | ・実態を踏まえ、日時や場所などの条件を教師が設定する。  ・みんなが納得できる提案理由になるように、提案者に助言する。  ・実践にあたって必要なことは何かを考えて柱立てができるように助言する。 | ◎計画委員会の役割、話し合いの進行の仕方等を理解している。  （知識・理解）  【活動計画・観察】 |
| ○月○日（○）  朝の時間 | ●「楽しい学級生活ノート」に自分の考えを記入する。 | ・話し合うことや決まっていることが共通理解できるよう、必要に応じて助言する。 | ◎実践の目的に合った意見を考えて判断し、ノートに書くことができる。  （思考・判断・表現）  【ノート】 |
| ○月○日（○）  昼休み | ○全員のノートに目を通し、書かれた意見を整理する。 | ・出された意見から話合いの見通しがもてるように助言する。短冊に記入する。 |  |
| ○月○日（○）  朝の時間 | ●ノートを受け取る。 | ・ノートに励ましの言葉等を記入し、話合いの意欲を高める。 |  |

６　展開

（１）本時のねらい

　○学級生活をより楽しく豊かなものにするため、友達と協力できる「グループで行う競技」の内容や盛り上げる工夫を考えることができるようにする。

　○「自分もよくて、みんなもいい」と思える意見を出し合い、提案理由やめあてにつながる決定ができるようにする。

（２）児童の活動計画

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 第○回　学級会　活動計画　　令和４年○月○日（○） | | |
| 議題 | ４－○オリンピックをしよう | |
| 提案理由  提案者  〇〇・〇〇  〇〇・〇〇  〇〇 | スポーツフェスティバルでは、クラスやチームで協力して楽しむことができました。そこでクラスでも、スポーツフェスティバルのような行事をやってみたいと思いました。クラスで考えるのだから運動が苦手な人でも楽しめるようなオリジナルの競技をしたり、盛り上げる工夫をしたりして、みんなで作り上げたという気持ちになれば、クラスの仲間とたくさん話してより仲が深まると思い、提案しました。 | |
| 計画委員 | 司会　　（　○○　○○　・　○○　○○　）  黒板記録（　○○　○○　・　○○　○○　）　　ノート記録（　○○　○○　） | |
| 話し合いの  めあて | ・グループで協力して行う競技を決めよう。  ・「自分もよくて、みんなもいい」と思える意見を出し合い、提案理由やめあてにつながる決定ができるようにしよう。 | |
| 決まっている  こと | 日時…　○月　○日（○）○時間目　　場所…体育館　　競技の数…３つ  グループ…スポーツフェスティバルのリレーの４チームを使って行う  準備の時間…学活の時間１回、ロング昼休み２回、足りなければ休み時間など | |
| 話合いの順序 | 気をつけること | 準備 |
| １はじめの言葉  ２計画委員の紹介  ３議題の確認  ４提案理由の確認  ５決まっていることの確認  ６話合いのめあての確認  ７先生の話  ８話合い  　話し合うこと①  どんな競技を  するか  （１０分）  話し合うこと②  盛り上げる工夫  （１２分）  話し合うこと③  役割分担  ９決まったことの発表  10振り返り  11先生の話  12おわりの言葉 | ・大きな声ではっきりと言う。（司会）  ・一人ずつ役割と名前、めあてをはっきりと紹介する。  ・大きな声ではっきりと言う。（司会）  ・キーワードを示しながら、大きな声ではっきりと言う。（提案者）  ・全員がわかるように確認し、他に確認したいことはないか聞く。  ・全員がめあてのキーワードを確認する。  ・黒板に短冊を貼り、「比べ合う」から話し合うようにする。  ・提案理由を意識しながら考えてもらう。  ・工夫は多くあってよいが、自分たちでできるか考えてもらう。  ・必要な係および役割分担を考えてもらう。  ・わかりやすくまとめて発表する。（ノート記録）  ・自分や仲間のよかったところを認められるようにし、時間があれば数人に発表してもらう。  ・気持ちよく話合いを終われるように、元気よく言う。（司会） | ・資料  ・短冊  ・「楽しい学級生活ノート」 |

（３）教師の指導計画

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 活動の計画 | 指導上の留意点  〈仮説への手立て〉 | ◎目指す児童の姿  （観点）【評価方法】 |
| １はじめの言葉  ２計画委員の紹介  ３議題の確認  ４提案理由の確認  ５決まっていることの確認  ６話合いのめあての確認  ７先生の話  ８話合い  　話し合うこと①  どんな競技を  するか  （１０分）  話し合うこと②  盛り上げる工夫  （１２分）  話し合うこと③  役割分担  ９決まったことの発表  10振り返り  11先生の話  12おわりの言葉 | ・教師も話合いに参加するということがわかりやすいように、司会の近くで見守る。  ・それぞれがその児童なりの自分の役割のめあてがいえるように、事前に指導する。  ・話合いの指針となるよう、電子黒板に表示しながら発表させる。〈仮１手②〉〈仮２手①〉  ・あらかじめ教師が設定しておく。〈仮１手③〉  ・いつでも提案理由を振り返ることができるように、確認させる。  ・実践を見通して、話合いができるようにする。  ・進行や記録の仕方について、計画委員に適宜助言をしていく。  ・話の方向がそれた時や自治的活動の範囲を超えそうなときは、積極的に助言する。  ・理由をつけて発表できるように助言する。  ・発表者が偏らないように、できるだけ多くの児童が発表できるように助言する。  ・仲間の意見を聞いて折り合いをつけることは、集団生活上必要であることを助言する。  ・わかりやすく発表できるよう、ノート記録の児童に助言する。  ・自己評価とともに、仲間のよかった点などを相互評価できるように助言する。〈仮２手②〉  ・今までよりよくなったところを称賛し、今後の課題、計画委員へのねぎらい、実践に向けての意欲付け等について簡潔に述べる。  ・再度、計画委員と全員を称賛して終わりにする。  ・板書を写真に撮り、掲示物を作成する準備をする。  〈仮２手③〉 | ◎提案理由を踏まえて、理由を明確にして自分の考えを発言している。  （思考・判断・表現）  【観察・ノート】  ◎これまでの話合いの経験を生かして、意見の比べ方やまとめ方を理解している。  （知識・技能）  【観察】 |

７　事後の活動

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日時  活動の場 | 児童の活動 | 指導上の留意点  〈仮説への手立て〉 | ◎目指す児童の姿  （観点）【評価方法】 |
| 〇月〇日（〇）  帰りの会 | ・係の役割分担をする。 | ・係は複数名で担当し、協力して活動できるように助言する。 | ◎みんなで協力し、進んで準備に取り組んでいる。  （主体的に取り組む態度）  【観察】  ◎実践の目的を考え、めあてを意識しながら友達と協力して活動している。  （思考・判断・表現）  【観察・ノート】 |
| 〇月〇日（〇）  ～〇日（〇） | ・係ごとに準備をする | ・協力したり、工夫したりしている児童を称賛する。  ・必要な時間や場所、道具などを十分に確保し、児童が進捗状況を連絡できるようにする。  　〈仮１手③〉  ・準備や作成で端末を使うことを助言する。〈仮１手①〉 |
| 〇月〇日（〇）  5・6校時 | ・４－〇オリンピック  ・終了後、振り返りをする。 | ・自己評価とともに、友達のよいところについても認められるように、助言する。〈仮２手②〉  ・今後の生活につなげていく大切さを指導する。 |

８　参考資料（デジタルコルクボード）

